

I. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、区民の意見や意向を詳細に把握することにより、区民ニーズに即した行政サービスの提供や、まちづくり整備事業の推進、区政運営方針の策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

- (1) 日常生活
- (2) 防犯
- (3) ごみ減量
- (4) 区役所との関わり
- (5) 情報・インターネット
- (6) 記念事業
- (7) 地域活動・施設利用等

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 金沢区全域
- (2) 調査対象 区内在住の満20歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの単純無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間 平成17年10月5日（水）～10月20日（木）
- (7) 調査実施機関 (株)サーベイリサーチセンター

4. 回収結果

標本数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,864	62.1%

5. 地域分類

区内の地域を6つの「地域生活圏」にまとめて、分析の指標の1つとした。各圏に含まれる町丁は次の通りである。なお、臨海産業圏については標本数が0のため、図表等には表記していない。

1. 六浦圏／ 朝比奈町、大道一丁目・二丁目、高舟台一丁目・二丁目、東朝比奈一丁目～三丁目、六浦町、六浦一丁目～五丁目、六浦東一丁目～三丁目、六浦南一丁目～五丁目
2. 金沢圏／ 海の公園、大川、乙舳町、金沢町、柴町、洲崎町、瀬戸、泥亀一丁目・二丁目、寺前一丁目・二丁目、野島町、八景島、平潟町、町屋町、谷津町、柳町
3. 釜利谷圏／ 釜利谷町、釜利谷西一丁目～六丁目、釜利谷東一丁目～八丁目、釜利谷南一丁目～四丁目、みず木町
4. 能見台・富岡西圏／ 富岡西一丁目～七丁目、能見台一丁目～六丁目、能見台通、能見台東、能見台森、堀口
5. 富岡東・並木圏／ 片吹、富岡東一丁目～六丁目、長浜、長浜一丁目・二丁目、並木一

丁目～三丁目、西柴一丁目～四丁目
 6. 臨海産業圏／ 幸浦一丁目・二丁目、昭和町、白帆、鳥浜町、福浦一丁目～三丁目

6. 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$\left\{ \begin{array}{l} N = \text{母集団} \text{ (金沢区の20歳以上人口)} \\ n = \text{比率算出の基数 (回答者数)} \\ p = \text{回答の比率 (\%)} \end{array} \right.$

今回の調査結果の標本誤差は下記のようになる。

回答比率 (P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,864	± 1.39	± 1.85	± 2.07	± 2.25	± 2.31
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
500	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00

※上表は $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

●この表の見方

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが上記の表である。見方としては、例えば、問1の回答者数が1,864で、金沢区を「住みよい」との答えが39.9%であった場合、「その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.25%以内（37.65%～42.15%）である」とみることができる。

7. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、(n)として表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 基数（n）が10未満のものは、図示はしても分析からは外した。
- (6) 分析の軸（＝表側）として回答者の属性や設問は、「無回答」を除いているため、各回答者の属性の基数の合計が全体と一致しない場合がある。
- (7) 本文やグラフの選択肢表記では、長文のものについては語句を省略していることがある。

8. 調査回答者の属性

【性別】

	基 数	構成比	
1 男性	750	40.2%	40.2
2 女性	1,079	57.9	57.9
(無回答)	35	1.9	1.9
合 計	1,864	100.0	

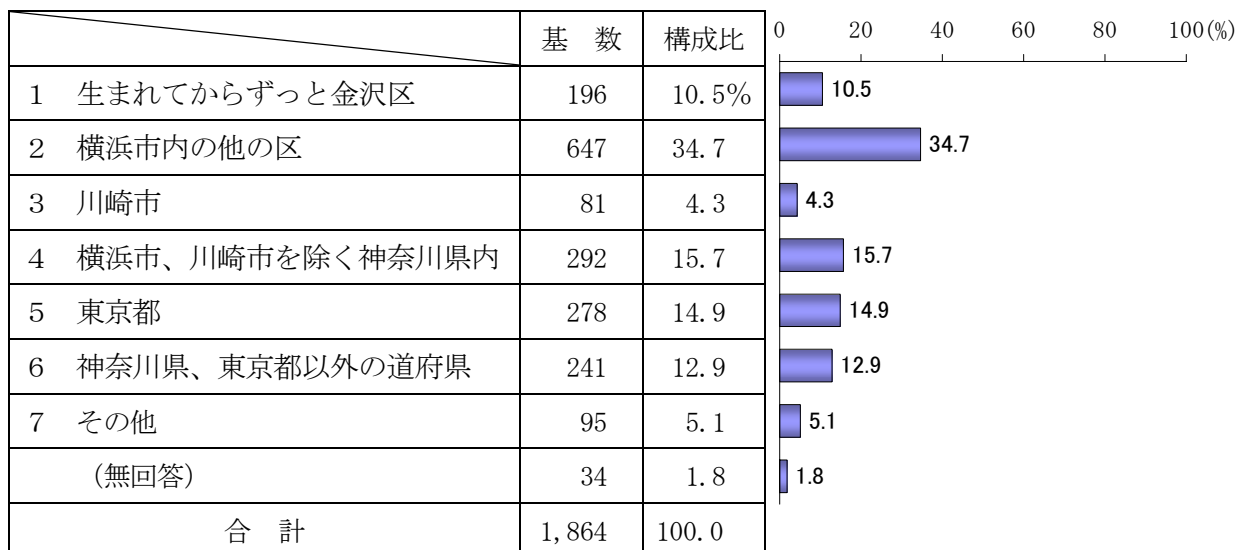
【年齢別】

	基 数	構成比	
1 20～29歳	204	10.9%	10.9
2 30～39歳	304	16.3	16.3
3 40～49歳	281	15.1	15.1
4 50～59歳	417	22.4	22.4
5 60～69歳	330	17.7	17.7
6 70～79歳	221	11.9	11.9
7 80歳以上	75	4.0	4.0
(無回答)	32	1.7	1.7
合 計	1,864	100.0	

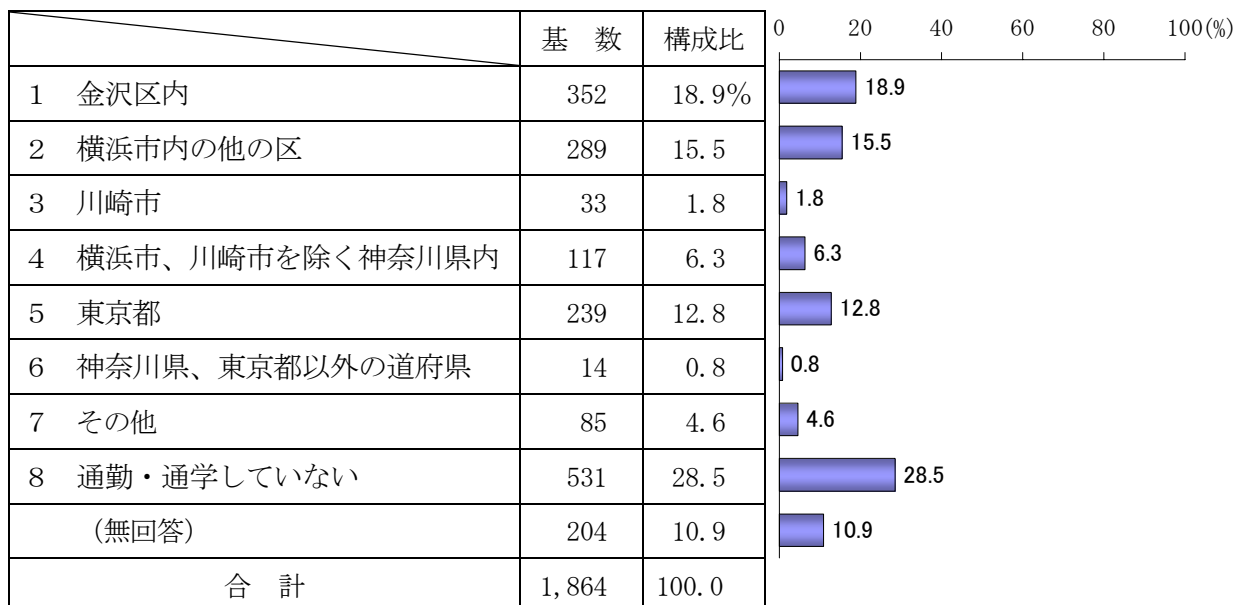
【居住年数別】

	基 数	構成比	
1 1年未満	66	3.5%	3.5
2 1年～3年未満	110	5.9	5.9
3 3年～5年未満	85	4.6	4.6
4 5年～10年未満	176	9.4	9.4
5 10年～20年未満	375	20.1	20.1
6 20年～30年未満	457	24.5	24.5
7 30年以上	562	30.2	30.2
(無回答)	33	1.8	1.8
合 計	1,864	100.0	

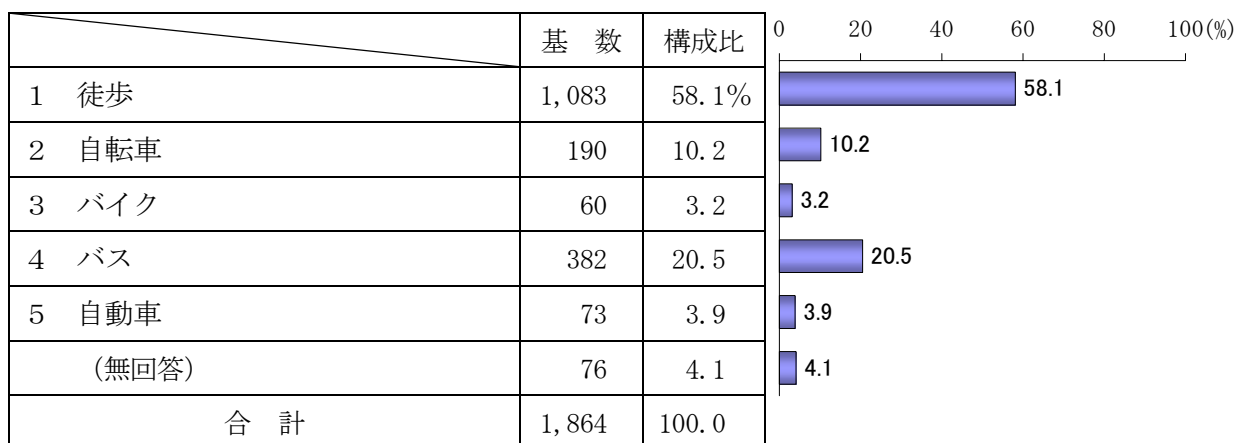
【以前の居住地別】



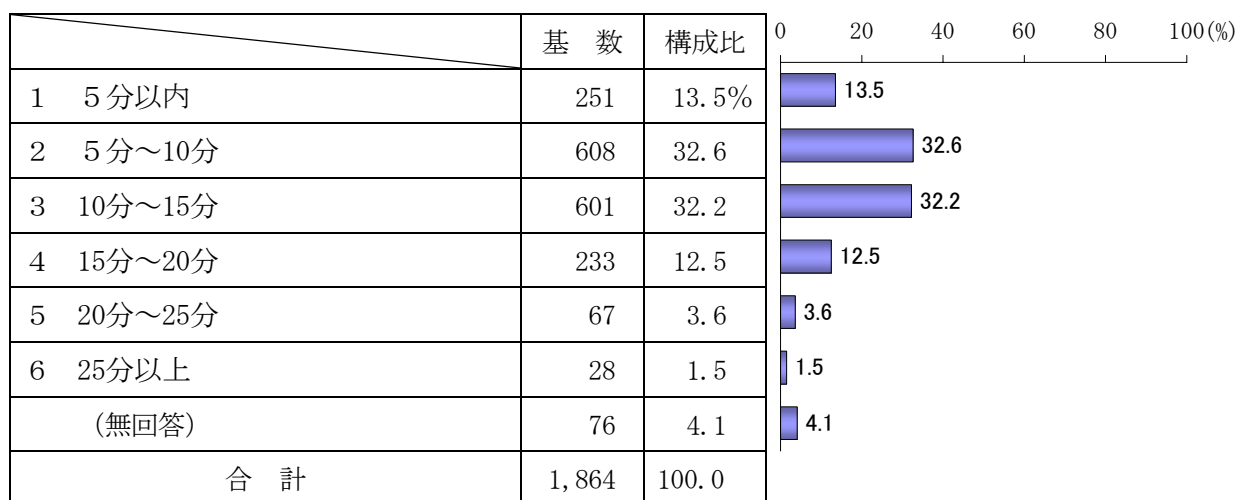
【通勤・通学先別】



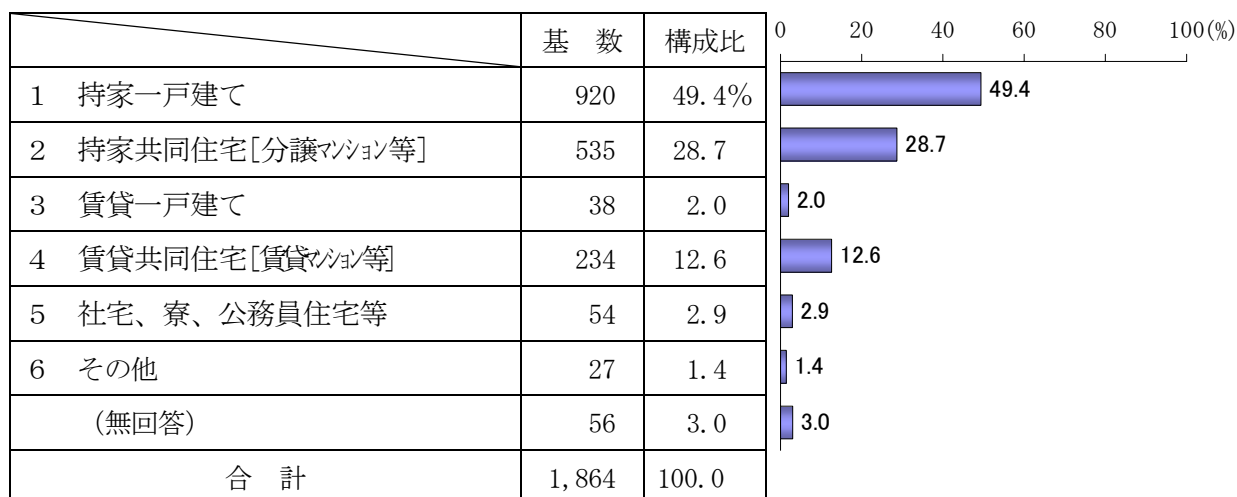
【最寄り駅までの交通手段別】



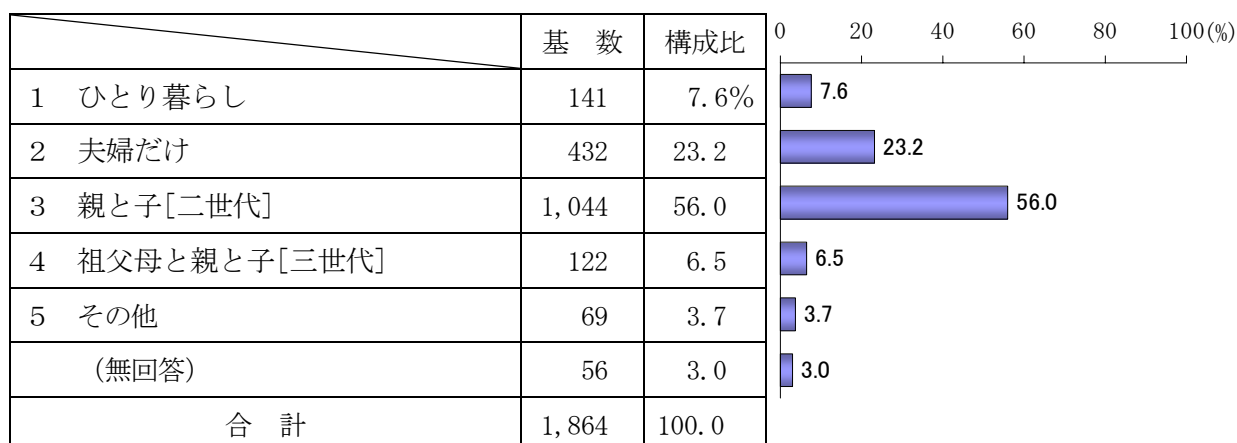
【最寄り駅までの所要時間別】



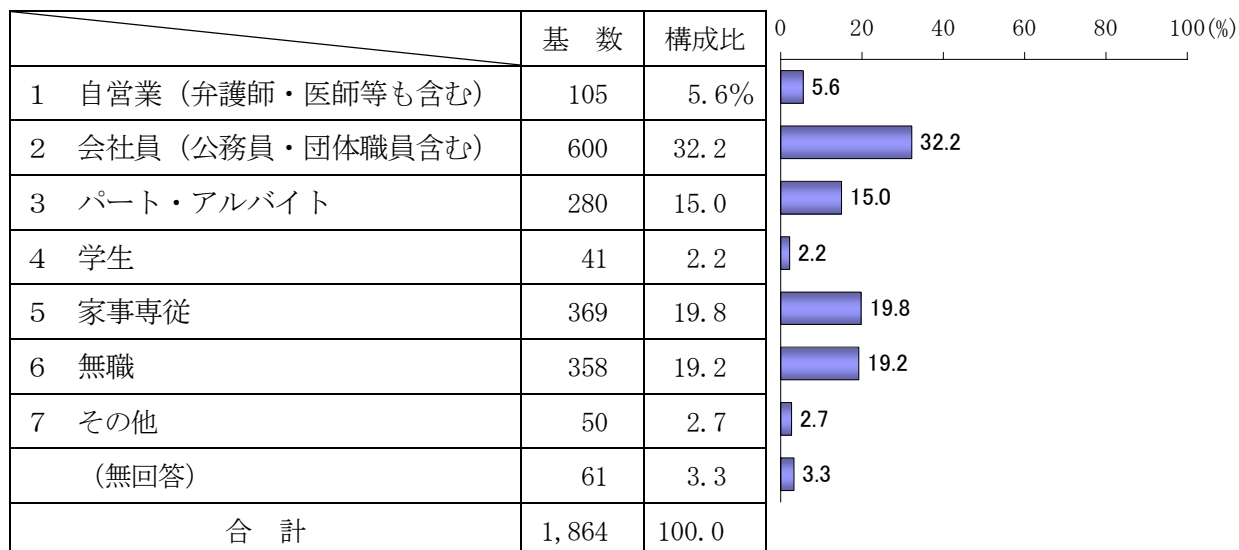
【住居形態別】



【家族構成別】



【職業別】



【居住地域別】

